

Dream21 vol.62

本年もよろしくお祈り申し上げます。

旧年中は、あたたかいご支援、ご指導を賜りましてありがとうございました。昨年は、私たち新政みえにとりまして、病で三谷哲央議員、平畑武議員を失い、本当につらい悲しい一年となりました。一方、9月に知事選挙と共に行われました県議会補欠選挙にて、激戦を勝ち抜き、市野修平議員（桑名市桑名郡選出）、曾我正彦議員（鈴鹿市選出）が新たに新政みえに加わっていただきました。新政みえ代表として、大きな変化のあった一年をメンバーと力を合わせて何とか乗り越えてこられたように思います。

9月の代表質問、12月の一般質問でも議論しましたが、2033年の第63回式年遷宮、2035年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会本県開催に向けて、これから10年間は、三重県にとって、大きな可能性を秘めた重要な期間となります。今年は、このチャンスを活かすべく様々な仕掛けをしていく必要があります。知事としっかりと議論をして、三重県が更に飛躍する年にしたいと思います。

また私たち県議会議員の任期最後の一年となりました。次期統一地方選挙に向けての候補者擁立などを進めて行かなければなりません。新政みえ代表として、会派の仲間の団結と必勝を第一に取組んで参ります。

本年が皆様にとりまして輝かしい年になりますことをお祈りします。本年もよろしくお祈り申し上げます。

三重県議会議員 新政みえ代表
稲垣昭義



県議会補欠選挙市野候補応援 県議会補欠選挙曾我候補応援 知事選挙一見候補応援

いながき昭義のSNSでの発信力は県議会ナンバーワン！！ SNSのフォロー・YouTubeチャンネル登録をお願いします

◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」
政策・活動報告などを発信。2007年4月からこつこつと続けています。



◆音声プラットフォームVoicy
不定期に朝6時から10分間、音声配信。



◆いながき昭義公式X (旧Twitter)
私の考え、素朴な感じたことを毎日発信。



◆いながき昭義公式インスタグラム
主に、ワインエキスパートとして発信。ストーリーも配信しています。



◆いながき昭義YouTubeチャンネル
選挙や活動動画の履歴配信。



いながき昭義プロフィール
昭和47年 四日市市東坂部町生まれ 大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業
平成7年～10年 株式会社三重銀行勤務（現三十三銀行）
平成11年 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
平成15年 三重県議会議員選挙30歳で最年少当選 以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長、予算決算常任委員会委員長等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり、議員提案条例を制定してきた。
平成28年11月 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
平成31年4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任
令和2年3月 明治大学大学院ガバナンス研究科修士
令和2年11月 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格
令和3年5月 三重県議会第115代副議長就任
令和5年4月 三重県議会議員選挙 6期目当選 新政みえ代表就任
令和6年5月 三重県議会第114代議長就任
令和7年5月 新政みえ代表就任

趣味：マラソン、登山、読書、ワイン（定期的にワイン会開催中）
好きな食べ物：餃子、麺類
尊敬する人物：坂本龍馬
家族：妻、息子（大学1）、娘（中3）、両親

◆新政みえ県外視察報告◆

11月19日～21日、新政みえの仲間達と共に北海道に視察に行きました。新政みえでは毎年一回会派メンバー全員で視察を行い、共通の課題認識と親睦を図っています。

1日目は、千歳市防災学習センターにお伺いしました。様々な体験施設をまわらせてもらいましたが、煙はなかなか大変でした。本県では南海トラフ地震がいつ来てもおかしくない中、備えています、防災の日常化が大切です。

2日目は、札幌市役所にてヒグマ管理計画について調査を行いました。三重県では紀伊山系から北勢地域にもツキノワグマが増えており、現在管理計画を策定中です。非常に参考になりました。午後は、世界遺産キウス周堤墓群で話を聞かせて頂きました。縄文人の死生観に思いを馳せながら、3200年前の縄文人の周堤墓を視察しました。縄文時代は、約1万年続いたと言われており、先日丹波湖で1万年前の縄文式土器が見つかったとの報道もありました。



縄文時代に興味が高まりました。

3日目は、瀧建設興業株式会社を訪問しました。従業員88名中44名が15カ国からの外国人です。人口減少時代に外国人との共生は重要です。私は、本県でインドネシアとの人材交流について、力を入れて取り組んでいますが、非常に参考になりました。午後は、北海道医療センターにて、難病支援と遠隔医療の調査を行いました。非常に有意義な3日間の会派視察となりました。

◆インドネシア議連活動報告◆

8月25日にインドネシア共和国移住労働者保護省のクリスティーナ副大臣が来県されました。知事が選挙中だったため副知事と服部議長と共に私が会長を務める三重県議会インドネシア議連の役員でお迎えしました。5月の保健省、労働省との覚書（MOU）に加えて、保健省とも人材交流に関する覚書を結びました。副大臣と総局長から力強いお言葉を頂きました。

また、12月18日には、アンナ保健省局長、アリアンティ・アナヤ保健評議会議長はじめ、保健省の幹部の皆さんが来県され、インドネシア議連の役員と懇談しました。5月に知事と共にインドネシア政府を訪問し締結したMOUに基づき、今年から具体的な人材交流が始まります。特に、介護、医療分野での取組を協議しました。



インドネシア保健省来県

インドネシア保健省副大臣と面談

◆全国豊かな海づくり大会開催◆

11月9日、志摩市にて、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国豊かな海づくり大会美し国みえ大会に出席しました。前日近鉄鳥羽駅にて、天皇皇后両陛下のお出迎えをさせていただきました。昨年は、大阪関西万博の開会式・レセプション、ご招待いただいた園遊会、全国豊かな海づくり大会と3度も天皇皇后両陛下とお会いさせていただく機会をいただきました。大変光栄なことと存じます。式典では、県内の小中高生にも活躍頂き、四日市の諏訪太鼓にも盛り上げてもらい素晴らしい式典でした。



全国豊かな海づくり大会



全国豊かな海づくり大会 天皇皇后両陛下お出迎え

◆後援会活動報告◆

10月19日に今年も四日市スポーツランドにて第18回さんまパーティーを開催しました。今年もたくさんの方にご参加いただき感謝です。年々、さんまの価格が高騰しておりますが、今年は少し落ち着いた感じがあります。



第18回さんまパーティー

また12月3日には、名四カントリーにて第15回後援会ゴルフコンペを開催しました。残念ながら補正予算審議が急遽入り、私は表彰式に間に合いませんでしたが、皆様のご協力が無事開催することが出来ました。



第15回後援会ゴルフコンペ

◆お伊勢さんハーフマラソン1時間49分2秒、松阪フルマラソン3時間59分17秒 自己ベスト更新！◆



お伊勢さんマラソン

12月7日にお伊勢さんハーフマラソン、21日に松阪フルマラソンに出場し、共に自己ベストを更新することが出来ました。悲願の「サブ4」達成することができ嬉しく思います。



松阪フルマラソン

仲間達と「STAY GOLDランニングチーム」を結成して、様々な大会に挑戦していますが、時々リレーマラソンにもエントリーしています。仲間を募集していますので、ランニングやっている皆さんぜひ、inagaki@dream-21.jpまでご連絡下さい。一緒に走りましょう。

ミニ座談会・気軽にお声掛け下さい

ミニ座談会・県政報告会を行っています。皆さんと意見交換を致したく、気軽にお声掛けください。希望日時、場所を事務所（inagaki@dream-21.jp）までご連絡いただければ駆けつけます。よろしくお願いいたします。

また毎月29日を「ふくの日」として、私の事務所にて「ふくの会」を開催しています。毎回テーマを決めての勉強会と懇親会です。定員15名ですが、どなたでもご参加いただけますので、詳細興味があります方は事務所（inagaki@dream-21.jp）までご連絡をお願いします。



ふくの会

◆個人献金のお祝い◆

いながき昭義の政治活動は皆様の個人献金によって支えられています。勝手なお願いで恐縮ですが、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

尚個人献金は、寄付金控除の対象となります。

三十三銀行本店 1804244 いながき昭義政経情報交換会
百五銀行生桑支店 397102 いながき昭義政経情報交換会

【新政みえ代表として代表質問に登壇 いながき昭義×一見勝之知事】

◆一見県政4年間の総括と知事選挙投票率について議論！

稲垣昭義：1期目の成果と課題についてどのように捉えているのか？また、今回の知事選挙の投票率は39.77%で、一見知事が得票率65.5%で圧勝でしたが、出口調査によりますと、30代以下の得票率は候補者と拮抗している状況でした。今回の選挙の投票率と若者からの得票率、若者からの支持についてどのように捉えているのか？

一見勝之知事：1期目4年間、例えばG7の交通大臣会合開催とか、目立つものもありましたが、派手さはないけど、堅実に、実直に三重県政を前に進めてきました。総括的には、一番力を注いだのが、防災対策で、津波避難タワー、シチュエーションルーム、オペレーションルームの設置などで一定の成果を上げてきたと思います。

子ども施策にも力を注ぎました。更には、産業政策で、ものづくり、農林水産業、観光、加えてインフラの整備、交通政策など、土地を耕して、種をまいて、芽が出てきたものがあると考えています。

若者については、既存のメディアからの情報よりも、SNSの発信で判断されているため、一定の判断に偏りが出てくる可能性もあるかと思しますので、これからの課題であると考えています。

稲垣昭義：今回の選挙を経て、私が一番危惧することは、ワンイシューで選挙がなされる時に、自分の考えを伝えることは大事で、特に若者へはその手段としてSNSは有効です。ぜひこれからSNSを活用してはいかがでしょうか？

一見勝之知事：SNSは、選挙の時だけではダメだとよく分かっていますので、今後、SNSのプロである稲垣議員のお話も伺いながら考えていきます。県民に公平な判断をしていただくための発信を考えていきます。

◆これからの2期目4年間の県政展開(南海トラフ地震対策特別措置条例制定、新型感染症対策マニュアル策定、学校ADR設置、カスタマーハラスメント防止条例制定など)について議論！

稲垣昭義：選挙の政策集で、南海トラフ地震対策特別措置条例(仮称)の制定と、コロナ対策の総括を踏まえ、次の新型感染症対策マニュアル(仮称)の策定といった二つの条例、計画づくりが挙げられておりますが、これらについてお尋ねをします。

一見勝之知事：既に防災対策推進条例はありますが、南海トラフ地震に特化したものを考えています。

具体的に、家屋倒壊、巨大津波、大火災、多数の孤立集落への対応を通常の地震よりも強化して規定し、他からの援助体制についても事前の準備が必要ですので、詳細に規定をする必要があると考えています。また、避難所開設、運営について、新しい知見を取り入れ強化したいと考えています。

新型感染症対策マニュアルは、コロナのときの最大の課題、問題は、初動対応でしたので、初動をどうするかということの規定をしようと思っています。

稲垣昭義：いじめ対策のための学校ADR(裁判手続によらない紛争解決手続)の設置と書かれています。いじめ対策はもちろんですが、教師と保護者間とのトラブル対応のための学校問題ADRの方がむしろ必要なのではないかと考えます。県が設置する学校ADRについて、知事は、いじめ対策だけを考えているのでしょうか？

一見勝之知事：学校ADRは、本年6月に総合教育会議で議論をしている中、いじめ対策の議論で出てきました。いじめに必ずしも限る必要もないと思いますが、学校ADRを新たに設置します。

稲垣昭義：カスタマーハラスメント防止条例を制定とありますが、議論が見えない、理念条例になるのではとの心配の声があります。罰則規定を設けている自治体が無いことを考えると、難しい論点があることと思います。三重県としては、罰則規定を盛り込んだ、より効果的な条例を制定すべきと考えますがいかがですか？

一見勝之知事：カスタマーハラスメント防止条例は、難しい議論があるのは事実ですが、刑法にも迷惑防止条例にも該当しない行為の議論を今検察庁とやっています。この調整は、オープンではやらないのが見えにくいかもしれませんが、議員ご指摘の点は、反省し、伝えられる範囲で、経過を伝えて参ります。そういった行為が社会からなくなるように、有効に機能する条例をつくるために罰則をつけるよう、検察と調整を続けていきます。



稲垣昭義：知事の掲げる様々な政策を推進するのは人であるため、県庁職員の士気は非常に重要です。10年間の退職者の推移を見ますと、2倍に増加しており、昨年は定年退職者を除き94名が退職している現状は、今の県庁の在り方を見直す必要があると考えます。

ぜひ退職者から積極的に聞き取りを行い、組織改革を行ってほしいと考えますが、いかがでしょうか？人的資源をどう育てて活かすか、職員のスキルアップ研修、積極的な人材登用についても考えをお聞かせください。

一見勝之知事：「明日の県庁」創造チームを作り、今年度末に一定の方向性を出すように、先進的な県にヒアリングに行き、議論をしています。既に退職者の声も聞いており、今後の若い人の人材育成に活かしていきたいと思っています。

大事なのは褒めることであると思っていますので、三重県民のためにしっかり頑張っている人を褒める、「MieVP表彰」を昨年から導入しています。これは、海上保安庁での表彰制度を参考につくったものですけれども、士気が少しでも高まればと思います

◆式年遷宮を見据えた未来の三重の姿について提案！

稲垣昭義：20年に一度の第63回式年遷宮が2033年に行われます。知事は、この第63回式年遷宮に向けて、どのように三重県を盛り上げていこうと考えておられるのか、三重県として何を仕掛けていこうと考えているのか、御所見をお聞かせください。私は、自然との共生、滞在型の観光をキーワードに、例えば全国植樹祭や全国都市緑化フェアなどの天皇陛下の行幸をいただくような県民参加型事業を式年遷宮に向けて戦略的に誘致することを考えてはどうかと思います。

これから8年間を考え、ワクワクするような取組を知事と一緒に考えていきたいと思いますが、私の提案についても知事の考えをお聞かせください。

一見勝之知事：非常に興味深い御提案を頂戴しました。2033年の式年遷宮は、三重県にとって大きなチャンスです。その年に多くの観光客が三重県に来るだけではなくて、華々しく全国に、全世界に報道されます。それを利用して、三重県として何をやるかが重要です。議員ご指摘の観光に目をつけるというのは大事なことです。今から観光インフラを整備し、周遊ルートもつくる必要があります。今年度予定しています「インバウンドの計画」、来年度予定しています「観光振興基本計画」の改定の中でも議論していきます。

全県的な検討が必要なためプロモーションを担当する政策企画部が司令塔になって、観光部も一緒に次期式年遷宮の時に何ができるかしっかりと考えていきます。以前提案いただいた「伊勢西国三十三か所の観音巡礼」、「ガーデンツーリズム」などを総体的に考えながら取組みます。

◆メガソーラーからペロブスカイトへ提案！

稲垣昭義：選挙戦で、知事は、メガソーラー発電からペロブスカイト発電へと訴えておられました。

ペロブスカイトは、既存の太陽光パネルに比べて厚みが約100分の1で、折り曲げて多様な場所に設置することも可能なため、ビル壁面など、これまで設置が難しかった場所に設置可能となり、製造工程も短縮され、製造コストダウンも期待されます。また、主要材料のヨウ素の生産量は、日本が世界の30%、世界第2位を占めています。このペロブスカイト太陽電池は、日本発の技術で日本が先行していることから、今後、私はメガソーラーからペロブスカイトへと変わっていくことを期待しております。三重県としては具体的にどのような取組を今後行っていくのか、お答えをください。

一見勝之知事：エネルギーミックスの考え方については、私も議員と同じ考え方です。再生エネルギーは現状22.9%ですが、国はこれを2030年に38%まで上げ、2040年には50%まで上げたいという目標を示しています。来年度は、もう少しフィールドを広くして、例えば農地で何かできないかとか、あるいは県の建物を使ってペロブスカイトを、壁とか屋根で何らかの実証ができないかを考えています。来年度予算に盛り込み、積極的に取組みます。

稲垣昭義：冒頭の話に戻りますけれども、今回の知事選挙や参議院議員選挙を見て、やっぱり政治家の発信力が非常に大事だと思います。政治家の信念を持った発信が、より良い県、より良い国をつくることになるとも思っていますので、ぜひ知事にはSNSでの発信もこれから考えていただきたいと思えます。これから4年間の任期を三重県民のために頑張っていただきたい、そのことをお願い申し上げまして、私の代表質問とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

新政みえ代表として代表質問

一般質問に登壇

【一般質問に登壇し、地元課題や要望案件を議論】

◆2035年三重県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に向けて議論！

稲垣昭義：本県では、2035年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が内々定されていますが、機運が高まっているとは言えません。中止となった三重とこわか国体・三重とこわか大会以降のスポーツ振興、発展のために、知事の強い思いと具体的な目標設定が必要と考えますがいかがですか？

一見勝之知事：2035年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会は、2030年頃に開催が内定すると想定しています。2035年までに、どのように県民の皆さんに周知し、機運を盛り上げていくかは時期も含めて検討したいと思います。また、目標設定については、現在、日本スポーツ協会で総合成績の意義や在り方等についての見直し議論がされていますので、その動向を踏まえつつ10年後の大会開催を見据え検討していきます。

稲垣昭義：スポーツ環境の充実についてもお尋ねします。県営のスポーツ施設に関して、10年後の国民スポーツ大会に向けて総点検を行って整備計画を作る必要があると考えますがいかがでしょうか？また、県立高校の体育館の空調設備の整備がなかなか進んでいません。県立高校の体育館やグラウンドなどのスポーツ環境の整備も計画的に行っていく必要があると思いますがいかがですか？

藤本典夫地域連携・交通部スポーツ推進局長：三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けては、10年先を見据えた「三重県スポーツ施設整備計画」を策定し、整備を進めてきました。市町でも国体開催に必要な施設整備が進められ、全国規模の大会が開催できる環境が整えられました。

その後の県営スポーツ施設の整備については、「第3次三重県スポーツ推進計画」で、2026年度までの取組を示し、日点検と併せて計画的に進めています。2035年に向けた新たな計画については、県内の施設状況を把握し、整備の必要性を関係市町と連携しながら検討を進めていきます。

また、高校生の部活動への支援がジュニアアスリートの育成と競技力の向上にもつながることから、学校施設の計画的な整備、充実が図られるよう取り組みます。

◆不登校対策について議論！

稲垣昭義：令和6年度の本県の公立小中学校の不登校児童・生徒数は4,759人と、前年から191人増加して過去最多、県立高校の不登校生徒数は1,110人で、前年から85人増加して過去最多となっています。教育委員会で、「令和6年度児童・生徒の暴力行為、いじめ、不登校等の調査結果」を取りまとめ、不登校対策方針について、「校内教育支援センターの設置促進」、「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど専門家を含めたチーム学校としての相談体制の充実」、「各市町での学びの多様化学校設置を進めること」、「フリースクールへの支援」、「保護者相談会の実施」、「レジリエンス教育の推進」と書かれています。この中から3点質問します。

まずはフリースクールについて、今年度、上限60万円ですが、人件費や備品購入費、設備修繕費などの補助金を新設いただきましたが、フリースクールの当事者も交えて協議する場を設け、この補助金の仕組みを使い勝手がいいように改め、さらに充実してほしいと考えますが、いかがでしょうか？

三重県議会では、「フリースクールに通う子どもの保護者に対する助成制度拡大について」などの請願を全会一致で可決しています。子どもたちの学びの機会を保障するため、フリースクールや学びの多様化学校に通う子ども達へさらなる支援が必要と考えますが、いかがでしょうか？

最後に、レジリエンス教育について現在の取組状況、今後、特に不登校対策として、具体的にどのような取組を広げていくのかお答えください。

竹内康雄子ども・福祉部長：フリースクールの運営費補助は、県内フリースクールの約8割の団体から申請をいただいて、10月にその全ての団体について交付決定をいたしました。

現場の声を踏まえて、制度の運用に当たっては、柔軟な対応を行っておりますが、補助金額については、補助上限額の見直しを検討しています。人件費の補助対象についても、見直しを検討していきます。

福永和伸教育長：県や市町が運営する無料の校外教育支援センターが、県内に23か所ありますが、民間が運営する有料のフリースクールを利用する経済的事情のある世帯を対象に、その利用料2分の1を支援する事業を行っています。フリースクール利用支援の拡充も今後は視野に置きつつ、各種支援策のバランスを総合的に勘案し、不登校対策全体の取組が全体最適になるように適切に予算配分を行っていきます。

不登校の未然防止に向けては、レジリエンス教育に取り組んでいます。これは、学校生活や友人関係などのつまずきや失敗、思うようにならない状況をしなやかに受け止め適応し、立ち直り、回復する力を養うという教育活動です。これまでに、小・中・高校合わせて56校が取組を進めており、子どもたちの自己肯定感が取組後に高まるなどの成果が見られています。

現在、発展的な内容の教材開発を進めていますので、本年度末には県内の各学校に届けるように致します。

◆四日市萬古陶磁器産業の振興について議論！

稲垣昭義：萬古陶磁器産業の振興についてお尋ねします。例えば、四日市で毎年開催されている萬古陶磁器まつりに県の物産展も出展するなど、県の特産品と萬古焼とのコラボレーションを進めていくべきと考えますがいかがですか？もう1点、萬古焼、伊賀焼、そして、鳴海ボンチャイナ(志摩市)の生産者や作家を巡る三重の陶磁器ツーリズムも非常にいいコンテンツだと考えます。このような焼き物を観光資源として取り込んだ滞在型観光振興に取り組んではいかがでしょうか？

松下功一雇用経済部長：県内では、事業者が共同で実施する販路拡大のイベントとして、萬古焼、茶道、和菓子の関係者が連携した萬古とお茶を楽しむ会などが開催されています。今後、四日市の萬古陶磁器まつりなどの機会を通じて、県産品それぞれの強みを生かした効果的なPRの提案、協力を行うとともに、事業者間の新たな連携の促進により相乗効果を高めることで、伝統産業の一層の振興に努めてまいります。

塩野進観光部長：DMOや観光協会等を対象に観光資源の磨き上げや旅行商品化に向けた支援を行っており、桑名萬古焼の窯元訪問や四日市萬古焼で日本酒を楽しむ食体験など、地域特有の伝統文化を体験できるプログラムの造成が進められています。引き続き、地域特有の伝統文化や歴史を背景に持つ焼き物などの観光資源としての磨き上げを図りつつ、滞在価値の創出や旅行商品の造成に向けた取組を支援していきます。



◆最高AI責任者(CAIO)設置を提案！

稲垣昭義：総務省は、生成AIの活用促進や管理を担う最高AI責任者(CAIO)を各自治体に設置することを求めています。AIの活用により、会議の議事録要約で約5割、企画書の作成で約3割の業務時間を減らすことができるとも言われています。福島県磐梯町では、既に最高AI責任者(CAIO)を設置して、「AI町長、AI課長」といった面白い仕組みを導入して、政策会議にAIが同席をし、データに基づく客観的な提案を行うといったことをやっています。ぜひ本県でも、民間から最高AI責任者(CAIO)を登用して、具体的な職員の業務時間を減らす目標を定めて取組むべきと考えますがいかがでしょうか？

横山正吾総務部デジタル推進局長：これまで県では、生成AIを利用する際に遵守すべきルールや利用上のポイントをまとめた「三重県生成AIガイドライン」に基づき運用を進めてきました。現在、1,300人を超える職員が利用しています。今年度は、職員向けの研修会を実践的なものにもします。引き続き、業務効率化と生産性の更なる向上を図るため、職員がより利用しやすい環境への更新を継続的に進めていきます。

また、議員提案のCAIOの設置は、今後、国により示される自治体向けのガイドライン、他県の取組も参考に検討していきます。

◆外国免許切替審査制度の改善を提案！

稲垣昭義：外国免許切替審査は、海外で運転免許を取得した日本人が帰国後に国内で車を運転できるようにするための制度でしたが、最近は訪日外国人による利用が多くなり、本来の目的とは違った利用が増えたことで、交通ルールの理解不足などによる問題が発生したり、外国人による交通事故も増えてきています。

本年10月に、この外免切替のルールが厳しくなりました。このルールの厳格化は、日本で車を運転する以上、必要なことであり、むしろ国の対応が遅かったぐらいだと思いますが、様々な課題が起こっていると聞きます。

外免切替の予約は、電話で取る仕組みとなっておりますが、なかなか電話が繋がらずに、すぐに定員一杯となっているようです。1か月分の予約がすぐに埋まり、キャンセル状況を電話で日々確認する状況となっております。他県では、インターネット上で予約する県もありますが、効率化を図る意味でも、このオンラインによる受付体制を本県もつくるべきと考えますがいかがでしょうか？

敦澤洋司警察本部長：外免切替の制度は、本年10月1日から運用が厳格化されました。電話予約が繋がりにくい状況が、実は運用の厳格化前からあります。その原因として、予約の受付を担当する人員や回線数が少ないことその他、書類審査や一連の審査を慎重に行う必要があるといった事情があります。少しでも改善するため、人員を増やしたり、予約枠を増やすなどしましたが、今後、外国人雇用の拡大による在留外国人の増加が予想されること、また、運用厳格化により、審査過程における滞留者が増加する可能性もあることなども踏まえて、予約専用ダイヤルの新たな開設やオンライン予約をはじめとする業務プロセスの改善、効率化、人員配置の最適化等について、中長期的な観点から検討していきたいと考えております。